

主 な 事 業	事 業 内 容	関係予算科目	支出総額	財 源 内 訳						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
みえ発！ボラパックⅡ 事業	○現地支援として、岩手県山田町に継続、集中的に大型バスを運行して、ボランティア活動を支援する事業(8便:9台運行) ・ボラパックⅡ＝文化や運動、教養を通じて、「ふれあい」を中心とした活動内容を展開(基本＝団体募集)、必要に応じて個人募集も実施 第28便～第35便(4/26～9/17)まで＝175名参加(含、現地にて参加7名) 18歳未満の方が21名参加(*割引制度 参加費¥5,000)、3泊4日の日程 最年少者11歳、最高齢者76歳 ・「山田町まなびの時間」(約1.5時間)＝三重からのバスが山田町に到着後、マイクロバスまたは、タクシーにて地元ガイドの案内の下、学び・気づきの場として活用	ボランティアバス事業費	5,409,736	○		○	○			
防災キャラバン・ 市町等連携事業	○東日本大震災の被災者、または支援者による講演と「みえボラ」参加者による活動報告を行い、参加者全員で「大規模災害」を考える ・防災/災害ボランティアの担い手のネットワークを地域に構築する取り組みにつながる契機とすることを目的として開催 ・開催地域：県内13か所(桑名市・四日市市・鈴鹿市・津市・松阪市・伊勢市・名張市・伊賀市・多気町・紀北町)	防災キャラバン・ 市町等連携事業費 印刷製本費 旅費交通費	874,715	○						
東日本大震災 継続支援団体 交通費助成事業	○県民の一人でも多くの方が被災地を訪れ、被災地・被災者の支援を行うとともに、その活動を通じて、防災・減災意識の向上を目指す事業 ・対象団体：東日本大震災の被災地で継続して支援活動を行っている県内に拠点を置く団体 ・対象費用：移動に係る交通費(電車代・燃料代・高速代等)の一部を助成(4団体へ助成) ・要件：支援先にパートナーとなる組織があり、継続的に支援している実績があること	東日本大震災継続支援 団体交通費助成事業費	300,375				○			
県内避難者支援事業	○東日本大震災により三重県内に避難・疎開された東北・関東の方々への支援事業 ・主な活動 *現在、当センターへの登録世帯数55世帯 ①「みえで仲間をつくり隊」活動：県内各地で「楽しみ隊」イベントを3回開催 (多気町内＝動物園・いちご狩り等、松阪市内＝手づくりピザ・古民家訪問 多気町内＝芋煮会) ②「コープみえ・くらしたすけあいの会」との協働事業 たすけあいの会のシステムを活用された方の利用料の一部を協働して支援 ・定期的に県内情報月刊誌の発送、各種支援情報の提供、ホームページ等での発信	県内避難者支援事業費	474,150				○			○
復興支援事業	○ゆるキャラ制作事業を通じて、山田町の「ゆるキャラ」を山田町の諸団体(町役場・観光協会・商工会他)と一緒に企画の段階から協議し、今後の復興と地域の活性化に活用する事業。また、三重の「ゆるキャラ」を使って町おこしをしている団体との連携を深め、三重からの息の長い支援ができる体制を構築する事業 ・「ゆるキャラ応援サポーター」を募集(募金活動)し、資金を調達(約70万) ・デザイン募集や最終決定の一般投票についても広く山田町内外に声をかけ、住民の方々を中心とした主体性を持った参加型による運営を展開	ゆるキャラ制作事業費	956,814				○	○		
その他の支援事業	・仮設談話室への寄贈写真集の制作費(活動中の参加者のみなさんの写真) ・山田で活動する際の三重車に係る維持管理費(車検・保険・税金等) ・東日本大震災に係る「写真パネル」(3セット)・各種資料の無料貸出し ・ホームページ・ツイッター・フェイスブック・ニュースメール等で情報発信他	その他事業費	1,124,863				○			
事務局運営	○当センターは6幹事団体によって、運営の基本方針が決定される その方針に沿って、事務局が企画し、上記の事業を展開 ・事業を円滑に効果的に実施するために、有給の職員7名を雇用(うち、5名は津市にて、2名は山田町にて勤務)及び、多数の事務局ボランティアの方々のご協力を得て、各種事業を運営	給料手当・法定福利費 被災地支援事業費 旅費交通費・印刷製本費 使用料及び賃借料・燃料費 消耗品費・通信運搬費	15,577,935	○	○		○			